

歌手・賢多（山ちゃん）の波瀾万丈の人生、人々に励ましを送る

交通事故、大腸がんで生死の淵をさまよい、奇跡の生還果たす 田中角栄、橋本龍太郎の私設秘書として25年間、政界支える



◆『ありがとう・ありがとう』が大ヒット

2015年8月にリリースした『ありがとう・ありがとう』(作詞：やまと付吉、作曲：岡宏、編曲：川端マモル)がロングランヒットを続けている。歌い手はキングレコード所属の歌手・賢多（山ちゃん）だ。今から20年前に体調の異変に気付いた山ちゃんは病院の門を叩いたところ、医師から「悪性腫瘍（大腸がん）で余命半年」という残酷な告知を受けた。そこで遺書を兼ねて詩集を出版した。その詩集から抜粋したのがこの曲の詞となつた。

歌詞の一番を紹介しよう。「♪何故突然に 余命半年と 悪夢であれば 神に縛（すが）りて あああ人の世の 僥さよ 叶うことなら よみがえれたら ありがとう あなたに感謝♪」

この曲にラジオ局、テレビ局が注目し、さらにさまざまなコンサートで歌ったことで広まり、厚生労働省の外郭団体の『がん撲滅推進運動キャンペーン』のテーマソングにしてほしという申し入れが舞い込むなどで火が付き、CDはうなぎ上りに売り上げを伸ばし、現在3万6000枚に達する注目曲となっている。

山ちゃんのがんは、当時11カ所にも転移し、何度も手術を繰り返した。しかし、「歌を歌うという前向きな心が、折れそうな心を吹き飛ばした。絶対に諦めないという気持ちが大切です」と語る。

「現在、病でベッドに横になっている人、『もう治らない』と諦めている人の励ましになれば…死を宣告された私は20年間も生き続けているのだから」と山ちゃんは語る。そうした人たちから「元気になりました」「勇気をもらいました」「前向きになりました」というメッセージが連日のよう舞い込む。

◆作曲家・吉田正氏の門下生として歌の世界に

山ちゃんが歌の世界に本格的にに入ったのは、作曲家の吉田正氏の門下生として歌のレッスンを始めてから。その山ちゃんがある時、歌謡選手権に出場、フランク永井のヒット曲でグランドチャンピオンに輝いた。次はいよいよプロ歌手としてのレコードデビューだ。しかし、19歳でレコーディングという日に交通事故に遭って

しまった。運命の悪戯ともいべき痛恨のアクシデントだった。この時も生死の境をさまよったが、死の淵から見事に生還した。

当時、学園紛争の嵐が吹きまくり、世は騒然としていた。大学生だった山ちゃんは学生運動にも首を突っ込んだ。しかし、転機が訪れた。叔父が政界と深い繋りがあったため、当時、田中角栄氏の側近に「私のものとで少々修行しないか？」と声をかけられ、政界にのめり込むことになった。以降、田中角栄首相、橋本龍太郎首相の私設秘書として25年間も政界の裏方として活動した。

これまで山ちゃんがCDをリリースしたのは『ありがとう・ありがとう』をはじめ、『再会』『新宿の女王』『いのち』『愛』『父子星（おやこぼし）』などだ。さらに非売品で感謝盤『MOODALBUM KENTA 賢多』（魅惑のムード全集・18曲）もCDにしている。



余命半年の宣言、CD『ありがとう・ありがとう』をリリース、大ヒット

35年間で「車椅子」1146台を関係施設に寄贈

◆ヒット曲『いのち』を誕生させた一通の手紙

特に『いのち』は、山ちゃんのもとに届いた一通の手紙によって生まれた。この歌は2011年3月11日の東日本大震災で九死に一生を得た主婦の経験に基づいている。手紙には夫が津波に飲み込まれてこの世を去った日、「自分も一緒に天国へ」と絶望の淵を彷徨っていたが、妊娠3ヶ月であることが判り、結婚6年目の2011年11月11日に待望の「おめでた」となった。その「おめでた」はまるで夫の生まれ変わりのように思えたと、切々と書き綴っていた。

そこで山ちゃんは少しでも被災者の励ましになればと『いのち』をリリースした。この歌は今でも多くの被災者の「人生応援歌」として歌い継がれている。

この間、山ちゃんは多くのステージを主催、プロデュースしてきた。2013年1月15日、「第6回山ちゃんカラオケ感謝祭」、同年9月2日、東日本大震災「チャ

リティーコンサート2013賢多」、2014年1月15日、東日本大震災・助け合い！「第7回山ちゃんカラオケ感謝祭」、同年9月3日、東日本大震災復興支援チャリティー「第2回日本歌謡選手権大会」、2015年1月15日、東日本大震災復興支援チャリティー「第8回山ちゃんカラオケ感謝祭」と定期的開催してきた。

さらに今年8月27日には新宿ワシントンホテルで東日本大震災復興支援チャリティー「賢多（山ちゃん）キングレコード（メジャー）デビュー5周年記念ディナーショー」を開催している。これらのイベントには綱木＆真理、三浦京子とハニーシックス、畠山みどり、大月みやこといった錚々たる歌手がゲスト出演している。

◆車椅子を寄贈、35年間で1146台に上る

このほか山ちゃんの社会奉仕活動で特筆したいのは35年間にわたって車椅子を関係施設に寄贈してきたことだ。1年間に多い時で200台、少ない時で十数台、この間、なんと寄贈総台数は1146台に上る。

山ちゃんは現在、病魔を吹き飛ばして、まさに八面六臂の活躍をしているが、このパワーの源はがんを発病したときに藁にも縛る思いで飲用を始めた微生物・大豆醸酵エキスだという。「このエキスのお陰で毎日健康的に活動ができるようになった」と胸を張る。

山ちゃんは現在、東京杉並区和田1丁目17-2（地下鉄丸ノ内線「中野富士見町駅」からすぐ）でカラオケ「山ちゃん」（TEL 03-3381-2122）を経営している。昼12時から夜11時まで（1日中歌い放題）で入場料（前金制）は1500円というシステム。毎日多くのカラオケファンが訪れ、カラオケを楽しんで帰るという。ちなみに店を開店してから11年になるが、この間、カラオケ「山ちゃん」のファンは2万5000人に達したというから驚きだ。



山ちゃんの活動は止まるところを知らない。2018年1月15日には「東日本大震災復興支援・賢多（山ちゃん）東京歌謡音楽祭」、同年5月には「東日本大震災復興支援チャリティー・第5回全日本歌謡選手権大会」が予定されている。（特約記者：篠原功）